

# 旭川龍谷高等学校 令和5年度 授業シラバス

教科名	科目名	単位数	学年	必/選	コース/フィールド
公民	倫理	2	2	選	特進コース
科目の目標	・先人の思想・生き方から「人間とは何か」「生きるとは何か」といった人生観を身に付ける。各思想家の歴史的つながりを理解し、現代に生きる我々の生活にあった生き方を考察し、倫理的な見地から表現できる。				
教科書	高等学校 新倫理 (清水書院)	副教材等	必要に応じて用意する		

## 1. 学習の到達目標

人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

## 2. 学習計画及び評価の観点

※評価の観点：X(知識・技能)，Y(思考・判断・表現)，Z(主体的に学習に取り組む態度)

学習内容	時数	月	学習のねらい	評価の観点		
				X	Y	Z
第1編 第1章 個性的な主体としての自己 第2章 心と行動をめぐる探究	6	4	・心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、個性やパーソナリティ、欲求や感情・認知・発達に着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。	○	○	○
第2編 第1章 哲学の始源： ギリシア思想 第2章 唯一神の宗教： キリスト教・イスラーム教 第1節 愛の教えー キリスト教 第2節 戒律と平等の 教えーイスラーム教	6 8	5 6	・西洋社会の根幹にあり、現代の合理主義の由来となる古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の一神教が神と人間の間をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解を深める。 ・世界宗教としてのキリスト教とイスラーム教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。	○	○	○

